

# 水遊び施設の整備方針（概要版）

## - こどもの池の更新 -

### 施設更新の理由

- ・昭和40年代から整備してきた「こどもの池」は夏場に水遊びができる施設として親しまれ、現在21箇所あります。
- ・ほとんどのこどもの池が整備から40年以上経過しており、運営面での課題や施設のあり方を見直す必要があります。
- ・施設の更新に合わせて、現状に合った施設形態へ転換を図ります。

### こどもの池が抱える課題

#### 利用ニーズの減少

利用対象年齢の子ども人口はこどもの池開設後のピークの昭和52年と比較し、令和3年は半数程度まで減少している。子どもの遊び方も多様化しており、利用者も減少傾向にある。

#### 限定された施設利用

施設の特性上、使用している1ヵ月以外の期間は日常的に利用できないデッドスペースとなってしまう。

#### 運営体制

プール形態の施設であるため、監視員の配置が必要となる。令和元年度に行ったアンケートでは、監視員の確保が困難または余裕が無いとの回答が半数近くあり、現在の運営体制を今後も長期的に維持することは困難。

#### 利用環境の変化

猛暑等の影響により開設日数が減少している。利用環境の変化に対応した施設への転換が必要となっている。

### 施設更新の方向性

#### 空間の有効活用

未使用期間のデッドスペース化を緩和し、日常的に利用できるスペースを広げる。

#### 施設形態の見直し

監視員が常駐する必要のない施設形態とし、監視員確保などの運営体制に関する課題を解決し、夏休み期間の1ヵ月に限らず、利用を可能にさせる。



- ・「空間の有効活用」により、公園全体の利用者数の増加を見据える。
- ・「施設形態の見直し」により、運営日数の増加による施設利用者数の増加を見据える。

### 施設更新の方針

#### 現在のこどもの池



#### 公園ごとの特色に合わせた「新たな水スタイル」施設

現在のこどもの池を「新たな水スタイル」施設に転換



#### 遊具のある遊び場



他にも…

- 遊具のある遊び場
- 広場として利用できるオープンスペース
- その他施設 に転換